

今週（8月23日から8月27日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、週を通して動意に乏しく、先週と概ね横ばい圏での推移となった。地銀・証券業態の出合いは▲0.06～▲0.015%と幅広いレンジで、都銀・信託業態の出合いは▲0.065%～▲0.06と低めの水準となった。3日積みとなる週末27日も、特段取りあがる動きは見られなかった。無担保コールO/N加重平均レートは、▲0.03%台での推移が続いた。ターム物の出合いは、1W～1M程度の期間で▲0.04～▲0.01%の幅広いレンジで出合いが見られた。日銀当座預金残高は、特段の財政要因もなく、535兆円前後で推移した。

25日には新型コロナ対応金融支援オペが6M物でオファーされ、195,841億円の貸付が行われた（期落ちは178,756億円）。残高は26日時点で725,021億円となる見込み。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、概ね▲0.095～▲0.080%程度の水準で推移した。

SC個別銘柄では、5年140～148、10年350～363、20年170～177、30年60～71、40年9～14などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、良好な需給環境のもと、全ゾーンで先週比横ばい圏での推移となった。

24日に実施された6M物の入札は、前回入札時からレートは低下したものの、概ね事前予想通りの無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは底堅く推移した。

26日に行われた短国買入オペは、需給改善が意識される中、前回と同額の1,000億円でオファーされ、弱めの結果となった。

27日に実施された3M物の入札は、無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは底堅く推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、25日・月末スタートの発行にあたり、複数の業態で大型発行があった。週間総額は償還超となっており、市場残高は25兆円台で推移している。発行レートについては、概ねマイナスで決着している。大型銘柄は0%近辺で推移する一方、発行量の少ない銘柄等はマイナス圏で強いビッドが見られた。

26日にはCP等買入オペが5,000億円オファーされた。入札結果は平均落札レート▲0.010%、按分レート▲0.015%と前回（平均▲0.011%・按分▲0.013%）比で平均レートはわずかに上昇し、按分レートはわずかに低下した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
8/23（月）	27,494.24	0.015	109.84	△ 0.032	△ 0.095	5,384,000
8/24（火）	27,732.10	0.015	109.76	△ 0.037	△ 0.095	5,384,600
8/25（水）	27,724.80	0.017	109.84	△ 0.037	△ 0.091	5,346,100
8/26（木）	27,742.29	0.015	110.00	△ 0.037	△ 0.087	5,374,400
8/27（金）	27,641.14	0.020	110.00	△ 0.037	△ 0.084	5,361,700

来週（8月30日から9月3日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
8/30 (月)	7月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50)				
8/31 (火)	7月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 7月の一般職業紹介状況(=有効求人倍率 厚生労働省 8:30) 7月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 7月の住宅着工統計(国土交通省 14:00) 8月の消費動向調査(内閣府 14:00)	2Y 30,000億円 9/1発行	交付税借入 10,450億円 9/10借入		6月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 8月の米CB消費者信頼感指数 8月のシカゴPM景況感指数 8月のユーロ圏消費者物価指数速報値
9/1 (水)	広島県金融経済懇談会にて若田部副総裁講演 4-6月期の法人企業統計調査季報(財務省 8:50)				7月の米建設支出 8月のISM 製造業景況指数
9/2 (木)	長崎県金融経済懇談会にて片岡審議委員講演 財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00) 8月のマネタリーベース(日銀 8:50)	10Y 26,000億円 9/3発行			7月の米貿易収支 7月の米製造業新規受注・出荷・在庫
9/3 (金)	9月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)	TB3M 50,000億円 9/6発行			8月の米雇用統計 8月のISM 非製造業景況指数

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
8/30 (月)	▲ 200	18,800	18,600	CP買入 社債買入	▲ 200 ▲ 100		▲ 300	18,300	3M発行▲50000償還62700
8/31 (火)	▲ 800	100	▲ 700	CP買入		5,000	5,000	4,300	交付税借入▲11000期日10500
9/1 (水)	1,000	▲ 23,000	▲ 22,000	全店共通 成長基盤	▲ 3,400 ▲ 4,000		▲ 7,400	▲ 29,400	財政融資資金の回収 2Y発行▲30000償還15000
9/2 (木)	1,000	▲ 20,000	▲ 19,000				0	▲ 19,000	年金保険料揚げ 法人税・消費税揚げ 普通交付税 労働保険料揚げ 交付税借入▲10500期日10500
9/3 (金)	0	▲ 22,000	▲ 22,000				0	▲ 22,000	10Y発行▲26000
週間合計	1,000	▲ 46,100	▲ 45,100	—	▲ 7,700	5,000	▲ 2,700	▲ 47,800	

8/30は日銀予想、8/31以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み期後半を迎え、調達側の動向が注目される。レポ市場は、GC T/Nは、参加者のスタンスに大きな変化がなければ▲0.090~▲0.080%程度の水準で推移することが見込まれる。短国市場は、3日に3M物の入札が実施予定となっている。需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。また、31日に実施が予想される短国買入オペのオフア額にも注目したい。CP市場は、月初の発行となり、事業法人の発行状況が注視される。主要なイベントは、海外では31日に8月のユーロ圏消費者物価指数速報値が予定されている。

- ◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。